

令和7年度 第1回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和7年6月9日（月）13時30分～15時30分

四国森林管理局 局議室（対面・WEB）

2 議題

- （1）管内における木材需給、価格動向等について
- （2）各分野における現状や今後の見通しについて
- （3）意見交換
- （4）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

住宅着工戸数は、建設基準法改正前の駆け込み需要で3月は大きく増加し、四国の木造住宅では対前年度比175.7%となった。4月はその反動により対前年度比67.3%と大きく減少し、今後の動向は不透明であるが、建築資材の高騰等の影響により、動きは停滞することが予想される。

このような中、木材の需給状況については、国産材製品は、輸入材からの代替需要等により、一定の引き合いは見られる状況。原木の不足感は一服し、現状価格は総じて保合で推移しているが、今後虫害等の影響が出てくる時期となることから、価格の下落や出材量減少が懸念される。

以上の状況を踏まえ、現時点では国有林材の供給調整は行わず、森林整備を通じた安定的な原木供給に努めることとする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 高知県内の原木市場の取扱量は、昨年度並みに回復し、今後の素材生産量は、昨年度と同量程度の予定であるが、担い手不足が続き生産量の拡大が難しい状況。建築基準法改正による駆け込み需要で3月の木造住宅着工数は大きく拡大するも、先行きは非常に不透明。木材需要も低位と考えている。
- ・ 生産活動に変化は見られず継続して生産されている。大径材の出材先が無い。住宅建築戸数の減少のため、木材製品の動きが鈍い。先行きの不透明感が続くと思われる。
- ・ 人員不足や作業地の奥地化、更には天候不順な日が多かった事で作業進行にも影響が出ていると思われる。今後は雨天による作業への影響が心配される。建築基準法改正に伴う駆け込み需要で反動が心配される。

○ 原木市場・共販所等

- ・ 入荷量は、高知県中西部の出材量は増加傾向にあるが、東部は減少。スギ、ヒノキとも製材工場の原木在庫不足から引き合いあり。今後の入荷は増加傾向にあると思われる。スギ、ヒノキの価格は概ね横ばいで推移し、あまり変動がない状況。新築住宅着工件数が少なく、木材需要、流通は期待できないが、原木不足が続いており、値下がりはないように思われる。
- ・ 買い気等も弱く、荷動きも鈍い。建築基準法改正の駆け込み需要以降は停滞気味になっている。しばらくは現状の状態が続くと思われる。需要の低下と虫害等も発生しているため、スギ・ヒノキとも若干値下がり傾向で、価格は弱い状況が続くと思われる。バイオマス向けの木材価格は下がってないので、下支えで大きく下がらないと予想。
- ・ 3月～5月の入荷状況は、スギ・ヒノキともにやや増加。ヒノキ70%、スギ30%。今後、梅雨時期で天候に左右されるが現状で推移すると思われる。例年3月中旬頃より原木価格は弱含みとなるが、今年はスギ・ヒノキともに横這いで推移。原木価格は現状のままで推移すると思われませんが、今後は虫害の影響で先行きは不透明。

○ 製材工場等

- ・ 原木の調達に支障はなく、製品価格は若干上昇し、今後は横ばいで推移する見通し。住宅着工数の低迷が顕著で、売れ行きは厳しい。製品価格は上昇したままだが、川下（プレカット・問屋・市場）の販売先である工務店の引き合いは弱い。3月の駆け込需要の反動で、4月からの着工数が激減し、現在も相当弱含み。住宅市場の低迷続くと思われる。
- ・ 昨年度と違い、4・5月の原木調達は順調。稼働も順調で、製品出荷もすべての製品が順調に販売受注。価格も少しずつ上昇し、現在は横ばい。着工数が減少する中、製品出荷や受注が増加しているのは、国産材への移行が進んでいると考えられる。製品在庫が減少しており、原木の調達ができれば、しばらくは現在のペースで生産予定。
- ・ 年明けの雪の影響で製材の原木在庫が少ない。徳島は大型製材2社が稼働し、原木の取合いになっている。梅雨入り暑さで出材の減少が心配。原木高で、製品の動きが悪く値段が上がらない。製材は非常に厳しい状態が続くと予想。